

動物の診察室から

○ 3 ○

今年も一月に、新潟市中央区の路上で鉛中毒の白鳥が保護されました。ここ数年毎年一、二羽の白鳥が鉛中毒で保護されます。白鳥やカモなどの穀類を食べる鳥は、食道に続く腺胃の下に筋胃(砂肝)がありそこに小石をとめて食物を摩擦させ、消化を助けるような構造になっています。そのため、湖底や田んぼ

鉛中毒特有の緑色下痢便が見られ、エックス線検査で筋胃内に三個の銃弾が見つかりました。全身麻酔で開腹手術を行い鉛を取り出し、解毒薬を注射したところ、十日で回復しました。今までのケースでは血液中の鉛濃度は、1800-2000μg/dl(正常は20μg/dl以下)でしたが、今回の白鳥は400μg



今年1月、新潟市内で保護された鉛中毒の白鳥

自然からの警告

周辺の小石を食べる習性があります。その時に鉛の散弾を一緒に食べてしまいます。その鉛散弾は、筋胃内にとどまり、胃酸で溶かされて徐々に体へ吸収され、鳥たちは一三週間で死んでしまいます。

しかし問題は、一羽の白鳥が鉛中毒になったこと

だけでなく、新潟県

にたった一羽の白鳥だけが鉛の弾を飲み込んだとは考えられません。知らず知らずのうちに鳥たちが死んでいる鳥たち

に影響のない銃弾を使うことをステータスにしていただけたらと思えます。

保護した白鳥は鉛中毒

はまずです。新潟県では、鉛中毒の被害の調査は行っていませんので実態は分かりませんが、一年間

私たちが体を毒するとは考えられませんが、鉛中毒の白鳥は、自然から私

たちへの警告の一つだと思えます。散弾銃を使用する

